

平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢と希望を持ち入学する生徒が達成感と充実感を深め、自己の未来を切り開く力を養う学校をめざす。

1. 将来を構想できる生徒を育成する。
2. 自己実現のための実力・判断力・行動力を育成する。
3. 国際化社会に生きる進取の気概に富む生徒を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざし、進路実現を保障する教育課程を編成・実施する。
各教科の実践と検証に則り、教育課程委員会を核として「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として授業改善に取り組む。
キャリア教育の充実をとおして自己実現のモチベーションを高める。
- (2) 情報を活用し自らの考えをまとめ発信できる力の育成に取り組む。
すべての科目の授業で、プレゼンテーション能力を養う機会を設ける。
「使える英語プロジェクト」に取り組み海外に発信する意欲と能力を育成する。

2 自己実現の支援の質のさらなる向上

- (1) 自律した基本的生活習慣を確立する。
生活指導部・学年・教科等の連絡を密にした生徒指導を実践する。
- (2) 進路実現のための3年間の支援体制を充実する。
進路指導部・学年・教科等の連絡を密にし、年間計画に基づいた進路指導をおこなう。
生徒一人ひとりに応じた指導や助言を必要に応じて提供する。
- (3) 集団活動をとおして自他を認める望ましい人間関係を築く生徒を育成する。
ルールを守り行事を成功させる達成感を生徒が実感できる指導をおこなう。

3 学校の特色づくりと組織力の向上

- (1) 国際理解教育を推進するための継続可能な学校の体制をつくる。
新たな「旭」のイメージ確立に向けて既存の事業に検証を加え取り組む。
- (2) 教育活動に関する教職員の共通理解を深め外部への発信力を高める。
組織目標の明確化、取り組み状況の共有化、組織課題を設定した教育活動を実践する。
中学校訪問、学校説明会、HP等を活用し教育活動に関する情報を発信する。
- (3) 校務の効率化を図る。
ICTを積極的に活用し、事務的作業の省力化を図る。
課題の共通理解と円滑な教育活動を実施できる校務分担体制を確立する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(確かな学力の育成) よく/やや あてはまるの割合 %</p> <p>【保護者】子どもは授業がわかりやすく興味深いと言っている 33.7</p> <p>【生徒】授業はわかりやすい 47.9</p> <p>授業でわからないことについて先生に質問しやすい 47.7</p> <p>50%弱の生徒がわかりやすいと思っている点は昨年度と同じである。</p> <p>教員の意識は教科指導に工夫し、生徒の意見をよく聞くという項目が85~94%と高い。生徒と教員間の差をどう考え対応するかが課題である。</p> <p>平日の家庭学習 0分 27%、30分~1時間 24%を考えると、自学の習慣の確立が不十分。これは授業への意欲的取組みに大いに関係する。生徒の学習時間は昨年より増加しているが自学の質と量を確保することが必要である。</p> <p>参考【授業アンケート】全生徒対象、全科目の平均</p> <p>授業の進度は難易度は自分にとって適切である 72</p> <p>毎時間授業の目標や大切なポイントを説明してくれる 74</p> <p>声や話し方は聞き取りやすくわかりやすい 72</p> <p>生徒の意見や要望を取り入れ授業改善に生かしている 60</p> <p>(生徒をのばす)</p> <p>【保護者】子どもが楽しく学校に行き (80.4) 生活指導や進路についての一定の理解を得ている (60.7/59.2) 学校行事を有意義と思う。(94.4)</p> <p>保護者の回答数が昨年の1.2倍と関心は高い、旭高校の注目点は進路実績3割、国際交流活動3割、生徒会活動や行事2割、教育方針2割とバランスの取れた高校生活への期待が考えられる。</p> <p>【生徒】学校が楽しい 74.0 満足 74.0</p> <p>将来の進路や生き方について考える機会がある 73.9</p> <p>命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある 58.7</p> <p>(組織について)</p> <p>学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている 76.9</p> <p>学校運営に教職員の意見が反映されている 75</p> <p>各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している 63.5</p>	<p>第1回 (9/4)</p> <p>●授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は非常に落ち着いており積極的に参加している生徒が多い。 ・生徒と先生の対話を通して授業が進められる点が印象深い。 <p>●今高校の授業に求められるものは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲と協調し自分自身を主張できる生徒を育成してほしい。読書の役割が非常に大きい。 ・自分の考えがある、自分の立ち位置をしっかりと持っている、自分が幸せになるためには社会が幸せでなければならぬと考えられる、そういう資質のある生徒を育成してほしい。また、異文化に触れ多くの体験を通して、自分と異なるバックグラウンドを持つ人の価値観を理解しようとする生徒を育成してほしい。 <p>第2回 (1/18)</p> <p>●学校教育自己診断の結果と分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者が気軽に先生に相談できるか」に関して保護者が相談するにはどのような方法があるかが明示されていない。気軽に相談というのは担任の先生により異なる。 ・保護者と学校のパイプを確保することは大切である。と同時に学校内で子どもたちが学校の人間関係からはずれないよう見守ることが大切である。高校生が相談するのはやはり友だちが多いと思う。友だちのなかで子どもが成長していける人間関係を保つことが大事である。 ・「学年ごとに生徒の満足度が高まる」に関して1年生は慣れる段階であり、学年での経年変化を分析する必要がある。 ・旭高校では個性を発揮して認められる場が学校全体にあるのではないかと。生徒が旭に何を求めるかを見極める。 ・学習時間に関して、家で勉強する時間が無い場合授業での学習が定着せず実力がつきにくい。そして、自分は何がわからないのか、欠けているものは何かに「気づく」ことが重要である。勉強とはプロセスであり、気づきとわかろうとするプロセスである。そこに向かって努力する習慣が必要である。 <p>●広報に関する提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校に貼ってもらうポスターを作成してはどうだろうか。生徒の笑顔とか国際交流の様子を大きく紹介。 ・小学校から英語を学ぶ時代です。英語学習や国際交流で小中高の連携を深めたい。 ・国際交流の先にあるものは何かをしっかりと見据える必要がある。 ・旭の生徒は伸びる素養があり、家庭学習のできないままの生徒を高校でどう伸ばすかが問われる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	<p>【わかる授業・やる気を引き出す授業】</p> <p>(1) 「考える、自ら学ぶ、発信する力をつける授業」をめざした授業改善への取り組み</p> <p>ア 授業改善推進チームとしての教育課程委員会の編成</p> <p>イ 各教科の実践と検証</p> <p>ウ 「使える英語プロジェクト」取り組みの深化</p>	<p>ア・授業規律の確立、基礎基本の定着</p> <p>年度当初の共通理解</p> <p>定期考査ごとの各教科での生徒学習状況の確認と必要に応じた対応</p> <p>・「考え自ら学ぶ授業づくり」</p> <p>「発信力を養う授業づくり」の研究</p> <p>《教科》言語活動を重視した考える力を養う授業づくり、学習意欲の向上を図る授業づくり</p> <p>《教育課程委員会》取り組みの明確化と校内情報を共有化し授業改善の具体的検討を行う。</p> <p>1 学期 授業改善のための具体的取り組み(実践モデル)の作成、公開授業、授業アンケート実施作成案</p> <p>イ 2 学期 公開授業、授業アンケートを活用した課題設定</p> <p>ウ・英語運用能力の向上に向けて普通科、国際教養科での英語学習の質の向上に取り組む。</p> <p>EFHS として指導方法の研究を重ねる。</p> <p>・国際社会に向き合える生徒育成のための国際教養科の専門科目の質の向上を図る。</p> <p>多言語・多文化の国際理解教育と発信力を育成する授業を展開する。</p> <p>第2外国語、科目「国際理解」「課題研究」での学習成果を発信できる力を育成する。</p> <p>図書教養部を中心として年間の取り組みを検討し各担当者が授業を実践する。成果発表の方策を検討する。</p>	<p>学校教育自己診断で</p> <p>「授業はわかりやすい」</p> <p>よくあてはまる・ややあてはまる(2011年12月実施49.5%)</p> <p>60%を目標とする。</p> <p>教育課程委員会を中心とした授業改善の年間スケジュールの作成と実施。</p> <p>学校外の資格試験への挑戦</p> <p>【英語検定】</p> <p>受験者数の増加(2011,12年148人、159人)合格率</p> <p>3級 90%</p> <p>準2級 50%</p> <p>2級 20%</p> <p>【その他の検定】</p> <p>TOEIC TOEFL 英語以外の言語の検定試験挑戦者数の増加</p> <p>授業成果の発表</p>	<p>ア・教育課程委員会と教科の連動による授業アンケート(全科目対象全校生徒による)10月実施、11月集計 (○)</p> <p>・学校教育自己診断(平成24年12月実施)</p> <p>授業はわかりやすい 48% (△)</p> <p>先生に質問しやすい 48%</p> <p>・授業アンケート (○)</p> <p>授業の進度や難易度適切 72%</p> <p>目標や大切なポイント説明有 74%</p> <p>説明わかりやすい 74%</p> <p>学校教育自己診断と授業アンケートの差の検討と学校協議会での提言にもある「生徒にいかにか勉強させるか」の課題に全校で今後も取り組む。</p> <p>イ・各教科で結果分析と課題検討2/3学期(○)</p> <p>・初任者、10年目研修者による研究授業実施</p> <p>・芸術科 9月「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に関する芸術表現体験」研究授業</p> <p>1年現代社会 10月弁護士会の出前授業</p> <p>JICA エッセイコンテスト応募</p> <p>6月授業公開 保護者42人</p> <p>11月授業公開 保護者13人</p> <p>時間的な余裕がない中でも互いに授業を見学し意見を交換する雰囲気を次年度も維持する。</p> <p>ウ・英検受験者 208人 合格率(%) (○)</p> <p>3級85 準2級34 2級12 1級0</p> <p>TOEIC受験3人 TOEFL受験1人</p> <p>その他外国語の検定は0人 2年3年の学習で3年の11月の検定受験は難しい。</p> <p>・EFHS 研究授業9/21実施 (◎)</p> <p>学校外から16人参加</p> <p>11/29 1年生(全員)暗唱大会</p> <p>English Forum1/26 3部門に参加</p> <p>13人生徒出演 Best Performance 賞受賞</p> <p>次年度はEFHS指定の2年の研究成果を活用しさらに生徒の英語力を伸ばす授業を考える。</p> <p>・「国際理解」(授業) (◎)</p> <p>4/19 タイの日本語教員29人参加</p> <p>11/15 JICA 研修員7人参加</p> <p>国際教養科1年 プレゼンテーションへの取り組み</p> <p>7/12 関西外国語大学にてレイノルズ氏の講演と実践発表</p> <p>1/31 卒業生による講演</p> <p>国際教養科2年</p> <p>11/22 スピーチ大会</p> <p>研究授業、English Forum等の生徒の様子から成果を示すことはある程度できたが、より広範囲に成果を発表できる方策、生徒のどのような力が育成されているかが発表から見える方法の工夫が必要である。</p>

府立旭高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">自「実現の支援」の向上</p>	<p>(1) 【しっかり頑張っている楽しい学校】 教育活動全般における「生徒をさらに伸ばす」指導と校内体制の整備</p> <p>ア学校目標の共有と担当部署の機動力の維持と学年、分掌、部顧問の連携 イ「使える英語事業」学校独自の国際交流への取り組み ウ地域活動の推進</p>	<p>ア・時間とルールを守る、挨拶のできる高校生生徒指導部、学年を中心とした年間を通した指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部、学年の連携を基本とする進路実現のための3年間の指導体制の確立 ・学習状況や希望の実態把握と進路情報の校内共有、個に応じた進路指導をめざす。 ・旭の良さをさらにアピールできる行事づくり。行事と学習に対する「メリハリ」を意識づける指導。(1学期体育祭、2学期文化祭、修学旅行) <p>イわくわくして英語を学びたい環境づくり 長期短期留学生の受け入れ。姉妹校との交流。 海外語学研修の実施。 図書教養部での企画立案、学校全体での実施。 ウ地域での音楽演奏、部活動での中学生との交流、ボランティア活動への参加を促し体験による自己形成を深める</p>	<p>遅刻年間総数3割減を継続する。</p> <p>2年生末の進路希望の実現をめざし各自の目標を設定し頑張る生徒を増やす。</p> <p>1年次終了時点の進路希望未定者数の減少をめざす。</p> <p>学校教育自己診断での学校生活に対する生徒の満足度を高める。 肯定的 (2011年12月実施 77.1%)</p> <p>3カ国の姉妹校からの訪問者を受け入れ交流を深める。 実施内容のHP掲載 参加生徒の声を集約する</p>	<p>ア・遅刻総数 昨年度比 0.98 (△) 1806人 (26クラス) 昨年 1841人 (25クラス)</p> <p>運動部員による登校時挨拶運動、各学年での生活習慣確立に向けた「気づき」の指導を継続中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入試受験者 86人 (昨年 46 (◎)) <p>1年2月時点 とりあえず進学 23 未定 10(2011) <<単位%>> 14 4(2012) 同一学年の変化 (現3年生) 4 3 (2012)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断での生徒の満足度 74.0% <p>1年 67 2年 71.3 3年 83.5 (○)</p> <p>イ HP(旭NOW、校長のMonthly Review等)掲載 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校サトリ・シ・スリヨタイ来日 10日間 4月 10人ホームステイ 授業参加 イングリッシュ・ハイキング 43人 1年総合学習の時間にタイダンス (全員) 姉妹校ヘレナラング・ギムナジウム 6月 4日間ホームステイと授業参加 姉妹校アデレード校来日 10日間 9月 12人ホームステイ 授業参加 イングリッシュ・バスツアー58人 アデレード校教員による授業実施 12/10 AFS日本協会 Kizuna Project 参加者 12人との交流 長期留学生受け入れ 5人 本校生 5人1年間の留学終了 1月現在4人海外で学習中 7/22~8/4 英国語学研修 25人 「おおさかグローバル塾」米国留学コース1人 英国留学コース1人参加 <p>ウ (◎)</p> <p>部活動を通して中学生との交流 7クラブ のべ28回</p> <p>吹奏楽部 8/16 旭中学校区4校PTA連絡協議会主催「たそがれコンサート」出演 8/25 旭区民まつり 演奏協力</p> <p>吹奏楽部、合唱同好会 12/26 近隣介護施設のクリスマス行事に参加。 生徒会、放送部 10/13 近隣商店街にて「安まちメール登録推奨キャンペーン」に参加。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校の特徴づくりと組織力の向上</p>	<p>(1) 【チーム旭】 自己実現を支援し国際交流の機会を提供するチームづくり ア次世代への継承 イ教科、学年、分掌、事務室の連携 ウ教職員研修の充実</p> <p>(2) ICT活用 ア教職員間の情報共有と適切な活用 イ広報活動のチームづくり (3) 危機管理</p>	<p>(1) ア教科指導の継承。教員間の授業見学と意見交換のしやすい環境づくり。分掌業務の継承。相談体制の確立。 イ 施設設備検討委員会あるいは有志によるチームで現状の配席図作成、効率的な配席の検討。教職員の意思の疎通を促進するスペースの検討。 ウ 実践的解決に繋がる研修の実施。既存委員会等で研修内容を検討する。</p> <p>(2) ア 情報処理委員会を中心とした活用しやすい環境づくり。 イ 広報委員会 (仮) 等のチーム設立 HPの中学生・保護者対象内容の充実 在校生保護者向けメールマガジンの充実</p> <p>3) 災害、不審者、マスコミその他の危機対応の共通理解を深める。マニュアルの確認。 保健部を中心とした避難訓練の実施。</p>	<p>若手教員からの聞き取りと必要に応じた対応の質の向上</p> <p>本年度の委員会の答申作成</p> <p>研修の年2回実施 (平成23年度1回)</p> <p>教務関係、進路関係での使用率を高める。 HPの更新状況 メールマガジン配信状況</p> <p>避難訓練実施状況 (平成23年度集団下校実施)</p>